

社会科学学習指導案

授業Ⅱ

5年3組 33名 指導者 曲田 遼

本授業は、以下の検証を行うものである。

「社会的事象の見方・考え方」を働かせるための資料および発問の工夫は、子供が主体的に追究活動に取り組み、これまで学習したことと関連付けて考える手立てとして有効であったか。

1 小単元 あたたかい土地と寒い土地の暮らし（大単元 わたしたちの国土）

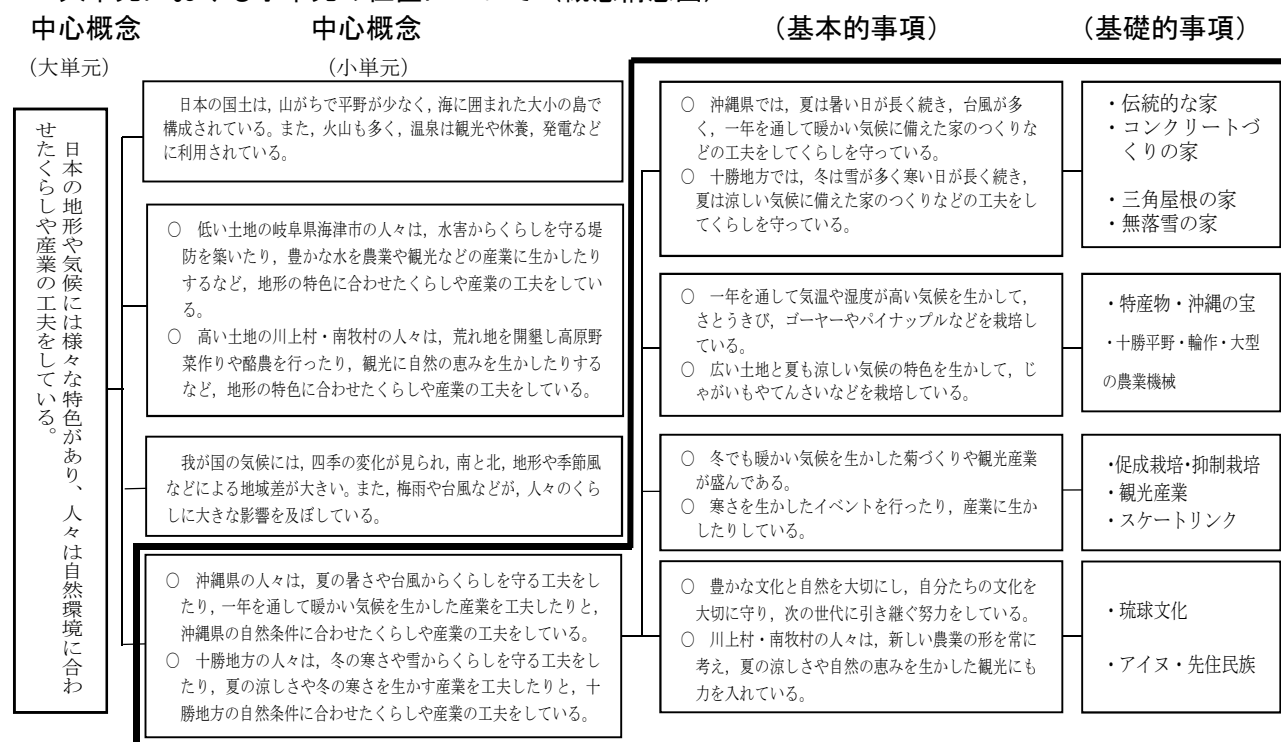
2 目 標

あたたかい土地や寒い土地など、気候条件に特色のある地域の様子や、その地域の人々の暮らしや産業の特色について、地図や各種資料を活用して調べたことをまとめるとともに、思考・判断したことを適切に表現することができるようにする。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 気候条件に特色のある地域の様子や気候条件を生かした人々の暮らしや産業の様子について、地図や各種資料を活用して調べたことを理解している。	○ 気候条件に特色のある地域の様子と、人々の暮らしや産業について考え、調べたことと関連付けて表現している。	○ 気候条件に特色のある地域の様子と、人々の暮らしや産業について関心をもち、意欲的に調べようとしている。

4 大単元における小単元の位置について（概念構想図）



5 単元について

(1) 小単元について

本小単元は、学習指導要領の第5学年の目標(2)及び(3)の一部の学習を達成することをねらいとして設定した。これまで子供たちは、「国土の地形」「低い土地の暮らしと高い土地の暮らし」「国土の気候の特色」について学習してきた。本小単元では、気候条件に特色のある地域について「家」、「農業」、「観光」、「文化」という追究の柱にそって調べることで、気候の特色を生かした人々の暮らしや産業の工夫について考えることをねらいとしている。

また、地図、雨温図、写真などの資料を活用することで、気候の特色を実感的に捉えることができるようにする。さらに、自分の住む地域と比較することで、気候条件と暮らしや産業の工夫を関連付けたり、総合したりして中心概念を追究していくことにする。

(2) 子供について

本学級の子供は、社会科の学習への関心が高く、課題に対して意欲的に学習に取り組むことができる子供が多い。また、ペアやグループ学習などの対話活動においては、自分の考えを相手に分かりやすく伝えようしたり、相手の考えを聞き、自分の考えに生かそうとしたりする姿も見られるようになってきた。しかし、表やグラフなどの資料を読み取ることや学習のまとめとなる基本的事項を身に付けることができていない子供もいる。

また、前小単元「国土の地形の特色」、「低い土地や高い土地の暮らし」の学習については、導入時に子供の「思いや願い」から生まれる問題解決的な学習を設定することで、意欲的に学習に取り組む子供が多かったが、学んだことを次の小単元につなげることができていない子供も見られる。さらに、子供が自ら「社会的事象の見方・考え方」を働かせて追究することができないことも見られる。

(3) 指導について

本小単元では、子供たちが「社会的事象の見方・考え方」を働かせて、問題解決的な学習に取り組む活動を通して、追究意欲を継続させながら学習に取り組むことができるようにする。

そこで導入では、大単元における小単元の位置を明確にしたり、子供の「思いや願い」から生まれる問題解決的な学習に取り組んだりすることで、追究意欲を高めることができるようにする。

また展開では、「位置、地形、土地利用、分布」や「工夫、努力」などの視点について、「どのような場所にあり、どのように広がっているだろうか。」や「どのような工夫や努力をしているのだろうか。」などの発問をし、「比較・分類したり総合したり、関連付けたりする」などの方法で追究することで、中心概念に迫ることができるようにする。また、資料を活用する際は、これまでに学習したことを生かして着目する視点や読み取り方を見付け、資料活用の技能を高めることができるようにする。

さらに、資料に対する自分の意見を深めるために、ペアやグループなどでの対話活動を積極的に取り入れることで、子供が主体的に授業に取り組み、次時への「学びに向かう力」を高めることができるようにする。

6 指導計画（小単元総時数6時間） ア～ホ：重点化して指導する「学習の基盤となる資質・能力」

過大単元 程元	過小単元 程元	主な学習活動【評価規準】	時間	基盤となる資質・能力		
				言語	情報	問題
つかむ		日本の地形や気候には、どのような特色のある地域があり、人々はどのような生活をしているのだろうか。	1			ホ
調べる	つかむ・見通す	1 あたたかい土地や寒い土地について考え、学習問題をつくる。 あたたかい土地や寒い土地に住む人々は、どのような生活をしているのだろうか。 2 学習問題について予想し、追究の柱を立てる。 ○ 家 ○ 農業 ○ 観光 ○ 文化 【態：気候条件に特色のある地域の様子と、人々の暮らしや産業の工夫について関心を持ち、意欲的に調べようとしている。】	1			ホ
	調べる	3 追究の柱について、個人やグループで調べ、全体で話し合う。 (1) 気候条件を生かした「家」について、資料を基に調べる。 (2) 気候条件を生かした「農業」の工夫について、資料を基に調べる。 (3) 気候条件を生かした「観光」の工夫について、資料を基に調べる。 (4) 気候条件を生かした「文化」について、資料を基に調べる。 【知：地図や各種資料を活用して、気候条件に特色のある地域の様子や気候条件を生かした人々の暮らしや産業の工夫について理解している。】 【思：気候条件に特色のある地域の様子と、人々の暮らしや産業の工夫について考え、関連付けたことを表現している。】	1 1 1 1	カ カ	ハ ハ	
	まとめる・生かす	4 追究の柱ごとにまとめたことを基にして、学習問題について話し合い、新聞にまとめる。 あたたかい土地や寒い土地に住む人々は、それぞれの気候条件を生かした生活をしている。 【態：気候条件に特色のある地域の様子と、人々の暮らしや産業について調べたことを新聞にまとめたり、次の単元につなげたりしようとしている。】	1		ノ	
まとめる		日本の地形や気候には、様々な特色のある地域があり、人々は自然環境の特色に合わせて様々な工夫をしている。	1			ホ

7 本 時（3／6）

(1) 目 標

あたたかい土地や寒い土地など、気候条件に特色のある地域の農業について調べ、その土地でくらす人々の気候条件に合わせた農業の工夫について考えることができるようにする。

(2) 評価規準

あたたかい土地や寒い土地など、気候条件に関わる農作物の資料を関連付けて調べることで、気候条件との関連について考え、自分なりの考えを表現している。

【思考・判断・表現】

(3) 指導に当たって

つかむ・見通す過程においては、学習計画表を活用し、既習内容について振り返ることで、本時のめあてにつなげることができるようにする。その際、大單元における小単元の位置を示すことで、各小単元の学習内容と関連付けることができるようにする。また、地図や資料などを活用し、子供の「思いや願い」から生まれる問題解決的な学習を設定することで、どのような農業が盛んであるのか意欲的に調べることができるようにする。

調べる過程においては、既習内容から、「社会的事象の見方・考え方」を働せることで、それぞれの気候条件と農業を関連付けて考えたり、自分なりの考えをもったりすることができるようにする。

まとめる・生かす過程では、全体で交流し、互いの考えを総合することで、基本的事項を身に付けることができるようにする。

(4) 本時の展開

[] 子供の意識 ○ 指導の手立て ※評価規準

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ・見通す	5	1 これまでの学習を振り返る。 2 本時のめあてを確認する。 あたたかい土地や寒い土地の人々は、どのような農業をしているのだろうか。	○ 学習計画表を基に振り返ることで、学習内容や学習方法について見通しをもつことができるようにする。
調べる	30	3 あたたかい土地と寒い土地で盛んな農業について調べる。 ・ あたたかい土地では、さとうきび、ゴーヤー、パイナップルなどの栽培が盛んだ。 ・ 寒い土地では、じゃがいも、てんさい、小豆などの栽培が盛んだ。 4 あたたかい土地と寒い土地の気候条件と農業との関連についてグループで調べる。 ・ さとうきびは、台風に強く、暑さに強いので盛んになった。 ・ てんさいは、寒さに強いので盛んになった。 5 鹿児島県で気候条件に特色のある地域の農業について調べる。 ・ 伊佐市や与論町などでも気候条件を生かした農業をしているんだ。	(協) ジグソー法で調べ、分かったことを比較することで、相違点に気付くことができるようにする。 (問) 「位置、地形、土地利用、分布」や「工夫、努力」について着目して社会的事象を見出し、「比較・分類、総合する」ような追究の方法で学習することで、気候条件と関連付けて考えることができるようにする。 ○ これまで学習したことを生かして着目する視点や方法を選択し追究できるようにする。 ※ あたたかい土地や寒い土地の気候条件と農業との関連について考えている。（ノート・ワークシート） 【思考・判断・表現】
まとめる・生かす	10	6 本時の学習についてまとめる。 あたたかい土地や寒い土地の人々は、様々な工夫をして気候条件を生かした農業に取り組んでいる。 7 次時の見通しをもつ。	○ 学習計画表を活用することで、本時の学習内容についての自分の考えを整理することができるようにする。また、「観光」についての学習へ意欲を高めることができるようにする。

社会科学学習指導略案

授業 I

3 年 1 組 3 3 名 指導者 小川 誠

本授業は、以下の検証を行うものである。

身に付けた視点の例や方法を生かし、位置や空間的な広がりに着目して社会的事象を見だし、関連付けて学習問題を立てることは、子供の深い学びにつながる手立てとして有効であったか。

1 小 単 元 市の様子 (大単元 わたしたちのまち みんなのまち)

2 大単元における小単元の位置について (概念構想図)

中心概念
(大単元)

中心概念
(小単元)

(基本的事項)

(基礎的事項)

わたしたちの住む鹿児島市には、様々な場所があり、地形や土地利用、交通や人の様子などに違いがある。	学校の周りには、さまざまな地形を生かした場所があり、場所によって様子が違いがある。	市は、土地の高さや地形などが違う場所があり、学校の周りよりもずっと広く様々な場所がある。	・鹿児島市・市の形・土地の高さ ・地形
	鹿児島市には、さまざまな地形を生かした場所があり、場所によって様子が違いがある。	土地の高さや地形などによって、駅や港、街や住宅などが作られ、土地に合わせた利用をしている。	・駅・港・街・ニュータウン ・公共施設
	鹿児島市には、さまざまな地形を生かした場所があり、場所によって様子が違いがある。	駅や港、街や住宅などの場所によって、交通の样に違いがあり、それぞれの場所をつないでいる。	・交通・列車・航路・高速道路 ・路線バス
	鹿児島市には、さまざまな地形を生かした場所があり、場所によって様子が違いがある。	土地や建物の様子、交通の様子に合わせて、生活したり利用したり、人の様子に違いがある。	・土地利用・生活の様子 ・観光地

3 指導計画 (小単元総時数 8 時間)

ア～ホ：重点化する「学習の基盤となる資質・能力」

過大単元 過小単元	過大単元 過小単元	主な学習活動【評価規準】	時間	基盤となる資質・能力		
				言語	情報	問題
つかむ		学校の周り (校区) や学校の周りの周り (市) の様子は、どのようになっているのだろうか。	1			ホ
調べる	つかむ・見通す	1 日常生活の経験から鹿児島市の様子について、わからないことや疑問に思うことを話し合い、学習問題をつくる。 鹿児島市の様子は、どのようになっているのだろうか。 【態：鹿児島市の様子を想起し、意欲的に学習計画を立てようとする。】 2 学習問題の予想を立て、学習計画 (追究の柱) を立てる。 ○ 地形の様子 ○ 土地利用の様子 ○ 交通の様子 ○ 人の様子	1 (本時)			ホ
	調べる	3 追究の柱について、個人やグループで調べ、全体で話し合う。 (1) 調べたい内容ごとのグループをつくり、追究の柱について調べる。 (2) 追究の柱ごとに調べてわかったことを白地図にまとめる。 (3) 追究の柱ごとの地図を見て、鹿児島市の様子について比較し、それぞれの事柄を関連付けながらまとめる。 【思：鹿児島市の様子を追究の柱ごとに比較しながら、それぞれの事柄を関連付けて考え、考えたことを表現している。】 【技：鹿児島市の様子の情報を集め、調べたことを白地図にまとめている。】	4	力		
	まとめる・生かす	4 調べたことをもとに、学習問題についてまとめる。 【知：鹿児島市の様子は、場所によって違いがあることや、それぞれの場所の特徴やよさを理解している。】 鹿児島市には、さまざまな地形を生かした場所があり、場所によって様子が違いがある。 5 鹿児島市の様子や鹿児島の見どころを紹介するパンフレットをつくる。	3		ノ	
まとめる		わたしたちの住む田上校区や鹿児島市には、様々な場所があり、地形や土地利用、交通や人の様子などに違いがある。	1			ホ

4 本 時 (1 / 11)

(1) 目 標

鹿児島市の様子を校区の学習や日常生活の経験を基にして、地形や土地利用の様子に関心を持ち、わからないことや疑問に思うことを関連付けて学習問題を設定することができるようにする。

(2) 評価規準

鹿児島市の様子に関心をもち、地形や土地利用の様子に着目し、学習問題を設定している。

【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 指導に当たって

つかむ・見通す過程では、田上校区の学習を想起し、同様の視点や追究の方法で新しい小単元の学習を進めることに見通しをもつことができるようにする。また、校区から離れた学習であるので、できるだけ身近な社会的事象を例示し、意欲を高めることができるようにする。

調べる過程では、子供に身近な社会的事象を例示し、そのつながりを関連付けて考えること、分からないことや調べたいことを自分なりの言葉でもつことができるようにする。子供が疑問をもつような社会的事象を例示し、本小単元の学習への意欲を高めることができるようにする。

立てる過程では、子供のそれぞれの疑問を交流する中で、小単元の学習問題を設定したり、追究の柱や学習する場所を設定したりすることができるようにする。

(4) 本時の展開

[] 子供の意識 ㊟資料 ○指導の手立て ※評価規準

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ・見通す	5	1 本時のめあてを確認する。 新しい単元の学習問題を立てよう。	○ 小単元名から学習内容を想起したり、学習計画表を振り返ったりすることで、学習内容や学習方法を見通すことができるようにする。
調べる	35	2 前単元の内容を想起し、単元名から内容・方法に見通しをもつ。 〔・ 次は、鹿児島市の学習をするよ。〕 〔・ 市をどうやって調べようかな。〕 3 鹿児島市の地図を見て、鹿児島市の様子について話し合う。 〔1〕どのようなところか。 〔・ 平らなところで海がそばにある。〕 〔・ 緑があって山の上にあるみたい。〕 〔2〕どのようなところがあるか。 〔・ 海のそばに港があるよ。〕 〔・ 山の上に家があるよ。〕 〔3〕どうやってつながっているか。 〔・ 家から町までは、車で行けるかな。〕 〔・ バスや電車に乗ると行けるかな。〕 〔4〕どんなときに行くか。 〔・ お休みの日に町や施設に行くよ。〕 〔・ いつもは家と学校のそばにいるね。〕 4 土地の様子や建物の様子、交通の様子や人の様子について、関連付ける。 〔・ 場所によって建物の仲間が集まるのではないだろうか。〕 〔・ 家と場所を結ぶ交通があるのではないだろうか。〕	○ 本時のめあてから本時や本小単元の学習に予想を立て、見通しをもつことができるようにする。 ㊟ 鹿児島市の地図、関連する写真等 ㊟ 身近な社会的事象を話題にすることで、意欲をもって課題をもち、解決へ向けて思考しようとすることができるようにする。 ○ 社会的事象から疑問に思ったことの予想を立てることで、自分なりの考えをもつことができるようにする。 ○ 子供の言葉を抽象化することで、追究の柱の基になる視点を確かめることができるようにする。 【追究の柱】 「土地」「土地利用」「交通」「人」 ○ 特徴的な場所を設定することで、学習内容の基になる場所を確かめることができるようにする。
立てる	5	5 分からないことや調べたいことを発表し、学習問題を立てる。 鹿児島市の様子は、どのようなになっているのだろうか。 6 本時の学習を振り返り、追究の柱を確かめる。	○ 本時を振り返り、学習計画表を作ることで、学習問題を立て、追究の柱を確認することができるようにする。 ※ 社会的事象から自分の疑問をもち、学習問題を設定している。 (ノート・学習計画表)